

「新しい画像技術の探求」をテーマに
「平成20年度 コニカミノルタ画像科学奨励賞」を公募

2008年6月30日

コニカミノルタ画像科学振興財団（理事長：植松富司、コニカミノルタホールディングス株式会社 特別顧問）は、新技術がめまぐるしく開発される画像分野で、新しい画像技術の探求を基本テーマに「平成20年度 コニカミノルタ画像科学奨励賞」を広く公募いたします。応募締め切りは2008年9月30日です。

画像科学の領域は、ハードコピーから液晶や有機ELに代表されるソフトコピーへの潮流が形成されつつあります。これに用いられる材料・デバイスはナノテク領域へ拡大し、医学分野では、ライフサイエンス領域まで、画像科学が展開されています。今年で第15回を迎える「コニカミノルタ画像科学奨励賞」は、次の3分野に分けて研究テーマを募集します。

- ①画像に関する材料及びデバイスの研究
- ②画像に関するシステム及びソフトウェアの研究
- ③画像に関するその他の先端的な研究

「コニカミノルタ画像科学奨励賞」は4件（副賞：1件100万円）のテーマに与えられ、奨励賞を受けられる方は、1年後に「研究経過報告書」を提出していただきます。応募要領は別紙のとおりです。

コニカミノルタ画像科学振興財団は、1966年の設立以来、画像科学の研究や写真にかかわる文化活動を助成することで、学術を振興し、文化を向上させることを目的に活動を続けてきました。その活動の中でも、1994年に開始した「コニカミノルタ画像科学奨励賞」は、様々な新技術の核となる画像分野で活躍する若手研究者に、その研究活動を援助する目的で幅広く公募するものです。

今年も、様々な研究分野における画像技術の活用や、斬新な発想による画像科学に関わる研究のご応募をお待ちしております。

本件に関するお問い合わせ先

報道関係： コニカミノルタホールディングス株式会社 広報グループ

TEL： 03（6250）2100

一般の方： （財）コニカミノルタ画像科学振興財団 事務局

（コニカミノルタホールディングス株式会社内）

TEL： 03（6250）2050

平成20年度 コニカミノルタ画像科学奨励賞応募要領

(財)コニカミノルタ画像科学振興財団

コニカミノルタ画像科学振興財団では、「新しい画像技術の探求」を基本テーマに、コニカミノルタ画像科学奨励賞の一般公募を行います。

基本テーマの趣旨：

近年、可視化された画像が社会環境、生活環境に大きく関わりを持つことが認識され、単に画像工学的見地からだけでなく、社会科学的見地からも総合的に把握する学問であると考えられています。人間の視覚機能と識別評価機能を通じて、芸術、経済、社会などの広い分野を含めた総合的学術活動として国際的に認知され、“Imaging Science”として広く定着するようになりました。

【対象】

(1)対象となる研究分野

画像科学の領域は、ハードコピーから液晶や有機ELに代表されるソフトコピーへの潮流が形成されつつあります。これに用いられる材料・デバイスはナノテク領域へ拡大し、医学分野では、ライフサイエンス領域まで、画像科学が展開されています。これらの研究をはじめ、様々な研究分野における画像技術の活用や斬新な発想による画像科学に関わる研究のご応募をお待ちしております。なお、便宜上、以下の3分野に分けてテーマを募集します。

- ①画像に関する材料及びデバイスの研究
- ②画像に関するシステム及びソフトウェアの研究
- ③画像に関するその他の先端的な研究

(2)応募資格

日本の大学、国公立及び民間公益研究機関の画像科学に関する研究者で、個人またはグループを応募資格とします。但し、年齢は40才以下（応募締切の9月30日現在、グループは代表者）とします。

【概要】

(1)奨励賞及び副賞

コニカミノルタ画像科学奨励賞は4件とし、その副賞は1件100万円とします。

(2)研究報告

奨励賞を受けられる方は、1年後「研究経過報告書」を提出して頂きます。

【選考委員会及び選考基準等】

(1)選考委員会

本多 健一 東京工芸大学名誉学長を委員長とする「奨励賞選考委員会」で厳正に選考します。

(2)選考基準等

- ①発想の独創性：テーマや内容に独創的な発想があり、研究の発展が見込まれること。
- ②計画の実現性：助成により、計画の所期の目的達成が促進されると認められること。

【応募手続】

- (1)申請書 当財団ホームページ <http://konicaminolta.jp/pr/foundation/>より申請書のフォーマットをダウンロードしてご利用ください。
- (2)応募 平成20年9月30日（必着）までにご郵送ください。
- (3)結果通知 平成20年12月以降
- (4)注意事項

1. 申請書はご請求がない限り返却致しませんのでご了承下さい。（他資料添付は不要）
2. 受賞された研究についての学会発表（論文、口頭）の際は本助成を受けた旨を明記して下さい。
3. 入選者の氏名や研究テーマを新聞、雑誌、インターネットなどで公表することがあります。
4. その他の応募の際の留意点は当財団HP内、注意事項をご覧ください。

【財団事務局／申請書送付先】

〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-6-1 コニカミノルタホールディングス（株）内
コニカミノルタ画像科学振興財団事務局
Tel (03) 6250-2050 Fax (03) 3218-1361

【参考：過去5回 歴代受賞者とテーマ】(五十音順)

平成19年度：竹岡 敬和氏(名古屋大学大学院 工学研究科 准教授)

【第14回】「全反射型ディスプレイ開発を目指した角度依存性のないアクティブフォトニック結晶の創製」

長尾 大輔氏(東北大学大学院 工学研究科 助教)

「レーザー誘起熱分解法を利用した発光性誘電パターン薄膜の開発」

西村 智氏(東京大学 循環器内科 研究員)

「生体内分子イメージング手法を用いたメタボリックシンドロームにおける細胞ネットワーク・機能異常の解明」

宮丸 文章氏(信州大学 理学部物理科学科 助教)

「テラヘルツ光による癌診断イメージングシステムの開発」

柳田 健之氏(東北大学 多元物質科学研究所 助教)

「無機ファイバーシンチレータを用いた高解像度ガンマカメラの開発」

平成18年度：秋田 英万氏(北海道大学 大学院薬学研究院 助手)

【第13回】「1 遺伝子リアルタイムイメージングを用いたアデノウイルスとの細胞内動態比較に基づく次世代人工遺伝子ベクターの開発」

田中 利恵氏(金沢大学 大学院医学系研究科保健学専攻 助手)

「フラットパネルX線ディテクタ (FPD) による胸部血流動態画像診断システムの開発」

中山 健一氏(山形大学 工学部機能高分子工学科 助教授)

「メタルベース型有機発光トランジスタの開発とディスプレイデバイスへの応用」

波多 聡 氏(九州大学 大学院総合理工学研究院 助手)

「透過電子顕微鏡を用いた暗視野トモグラフィーによる結晶材料ナノ構造の3次元イメージング」

平成17年度：池谷 裕二氏(東京大学大学院)

【第12回】「単一細胞解像度をもった神経活動の大規模イメージング」

白石 幸英氏(山口東京理科大学 基礎工学部物質・環境工学科 講師)

「液晶分子保護金属ナノ粒子添加による超高速応答液晶デバイスの開発」

橋本 守 氏(大阪大学大学院 基礎工学研究科 助教授)

「分子のベクトル場の分布画像を観測する光学顕微鏡システム」

山本 卓明氏(九州大学大学院 医学研究院整形外科学 助手)

「ステロイド誘発骨壊死症の超早期診断と臨床経過の予知を目的とした新しい3次元MRI画像診断法の確立」

平成16年度：植田 琢也氏(千葉大学大学院)

【第11回】「腫瘍血管新生の動態解析を目指したCT灌流画像(CTパーフュージョン)解析モデル確立と解析プログラム開発」

菊池 昭彦氏(上智大学)

「窒化物ナノコラム半導体を用いた高効率紫外線発光デバイスの開発」

西岡 賢祐氏(北陸先端科学技術大学院大学)

「直線偏光Nd:YAGレーザーを用いたSiドットの2次元規則性配列」

波多 伸彦氏(東京大学大学院)

「胎児外科手術のための画像誘導手術ソフトウェア」

平成15年度：栗辻 安浩氏(京都工芸繊維大学大学院)

【第10回】「フェムト秒時空間光速度動画像記録・再生システム」

井原 敏博氏(熊本大学)

「発光性ナノ粒子の選択的凝集を利用した新規発色素子の開発」

大野 良治氏(神戸大学大学院)

「超高速3D MR画像による定量的局所呼吸運動解析に基づく局所肺機能評価ソフトウェアの開発」

小島 宏建氏(東京大学大学院)

「生体内一酸化窒素蛍光プローブの創製と応用」